

■アルベルト監督 2020 シーズン総括会見 議事録

2020年12月20日(日) 17:25~18:15 @NACK5 スタジアム

—今季、一時は4位まで浮上したが、終盤は失速した。その原因は。(新潟日報 山田)

2つ、大きな原因が考えられます。まずは重要な選手たちの、さまざまな理由での離脱。けがでの戦線離脱もありましたし、スポーツではないテーマによつての戦線離脱もありました。それが1つ目の原因だと思います。

あとはアウェーでのジュビロ磐田戦から何試合か、議論の余地ある審判の判定によつて、われわれに不利な形で判定がくだり、それも試合結果に影響を及ぼしたかと思います。

そしてこの最後の5、6試合に関しては、やはりローテーションも難しく、ギリギリのコンディションの中での戦いが続く中、結果的には勝利が得られない試合が続いてしまったことは残念です。このうちの1つでも2つでも勝っていたら、順位ももう少し上で今シーズンを終えたと思います。

この最後の数試合の結果がとてもネガティブなものゆえに、残念な順位で今シーズンを締めくくることになってしまいました。そのことはとても残念です。

勝利が続いているとき、引き分けであろうともポジティブな結果が続いているときは、チームもポジティブに戦い続けることができます。けれどもシーズンの最後のところでは、いい結果が出ない中、なかなかポジティブな流れがつかれなかったことは残念です。

応援してくださっているサポーターに対して、本当に申し訳ない気持ちがいっぱいです。

私のことを信頼し続けてくれている社長、寺川強化部長に対しても申し訳ない気持ちでいっぱいです。この結果に対して、一番の責任者は私だと思います。

—昇格するには失点を減らすことが重要になると思うが、来季どう改善するか。(新潟日報 山田)

まずは守備の話をする前に、攻撃の改善が重要になってきます。それが今シーズンが一番大きな課題だったからです。当然ながら、守備の改善も目指さなければいけません。ただこの数試合、けが人もあり、ディフェンスラインは同じメンバーがプレーしなければいけない状況が続いていたというのは、理解しなければいけないポイントだと思います。

—終盤、選手に疲労もたまっていたと思うが、ピッチ外の問題で選手を欠いたことに関して、残された選手の心理面に与えた影響はどう見ているか。(新潟日報 山田)

約1カ月間、あの時期はすごく難しい状況が続いていました。社会的にも問題になったあのことが起こった際には、選手たち、チームは、よりメンタル的に強くならなければいけませんでした。

ただあの件よりも、多くのけが人が出てしまったことが、チームには、よりネガティブに働いたと思いま

す。チームの中心になりうる選手、なっていた選手の多くが、けがで戦線離脱してしまったことは、とても残念でした。けがで長期戦線離脱する選手が多数出てしまったのが、大きな問題だったと思います。それプラス、さまざまな要素の集合体によって、今シーズンの結果がこのようになってしまったと思います。

—監督はシーズン後半のアウェー戦で、理想に近づけた試合があったと話していたが、それはアウェーの京都戦か、アウェーの山形戦かと思うが。(J's GOAL 大中)

京都、山形、松本、Vファーレン、ジェフ、アビスパ。アウェーでの対戦で、時間帯は短かったかもしれませんが、チームとして期待したプレーが表現できたと思います。徳島、長崎もいいプレーができたと思います。ホームでの試合の方が、いい試合ができていなかった流れがあったかと思います。

—具体的に、どういうあたりが理想に近づけた手応えがあったのか。(J's GOAL 大中)

リーグを折り返した後、後半戦の2カ月ほどの間、いいプレーが要所要所でできていた時期があったと思います。なぜならチームは、速いプレースピードを維持することをしっかり理解できていたからです。あとは前線からのハイプレスも、しっかりとチームは理解して表現していた時期です。そこはとても重要な前進だったと思います。そして守備ブロックが下がることなく、ディフェンスラインをしっかりと高く維持することは、いいかたちで表現できていた時間帯が長かったと思います。

ただ、そのいい時期も含めて、今シーズン継続的にチームが課題として抱えているのは、フィニッシュの部分だと思います。決定的なチャンスにおける決定力は、シーズンを通じてとても低かったと思います。そこはワンシーズンずっと引きずっていた課題だと思います。

—自分の印象では、難しい流れがずっと続いていた時期、アウェー琉球戦が終わった後に吹っ切れたというか、ポジティブになられた印象だったが。(J's GOAL 大中)

この終盤の5試合ほどは、自分の記憶から削除したい気持ちでいっぱいです。それを除けば、チームは継続的に成長し続けてきたと思います。

そして、小島亨介の復帰もチームに大きなポジティブな影響をもたらしました。あとは夏の補強で加入してくれた福田晃斗、中島元彦はチームにとってとても重要だったと思います。その3人の加入、もしくは復帰によって、チームの成長スピードが飛躍的にアップしたと思います。

その後、小島亨介が再び戦線離脱し、福田晃斗がけがによって戦線離脱したのは、とてもチームにとって痛かったです。ロメロ・フランクも新井直人も、ゴンサロ・ゴンザレスも、ファビオもそうです。そしてペドロ・マンジーも、けがも多くシーズン途中でチームを離れなければいけない展開になったのは、とても残念でした。

今のような流れの中、いろいろなことが起こり、シーズン終盤にはいい結果が続かなかったのはとても残念です。

―終盤、新井直人選手がけがをしたことで、センターバックが手薄になった。その中で、岡本將成選手を（育成型期限付き移籍先の鹿児島から）呼び戻す考えはなかったのか。（J's GOAL 大中）

ノー。彼はまだ若く、よりプレー経験を続けて成長しなければいけない選手だと思います。直人が不在の中、センターバックのコンビを明確に安定したかたちで表現できるのは、舞行龍ジェームズとマウロの2人だったので彼らがプレーし続ける流れになりました。早川史哉と田上大地は、センターバックというより、サイドバックでいいプレーをしていたので、その流れを崩したくありませんでした。新井直人は、守備は空中戦も強いですし、同時にビルドアップでもいい貢献をしていたので、彼の戦線離脱もとても残念でした。

―シーズンを通じて、決定力を克服できなかったとのことだが、来季以降はどういう部分を変えて、どういう部分を調整して克服するか。（朝日新聞 小川）

監督では解決しづらいポイントです。選手の補強が重要になってきます。フィニッシュのところで質の高いプレーをしてくれる選手を補強しなければなりません。今シーズンのチーム内の得点が最も多かったのは鄭大世（9得点）であり、渡邊新太（7得点）です。そして鄭大世は半分のシーズンしかプレーしていないですし、新太もけがでほぼ半分しかプレーできていません。ファビオも素晴らしいプレーをしていましたが、初めてJリーグでプレーするというところで、この日本のサッカーに適応している最中でした。ファビオはけがもあり、戦線離脱している時期もありました。

昨シーズンは、リーグでも得点王になる選手（レオナルド／2019シーズン28得点／現・J1浦和）がいて、高い決定力をチームに提供してくれていました。今シーズンはそのような選手が不在の中、チーム全体の決定力が欠けていたと思います。

―最後の5試合を除き、チームは継続的に成長してきたということだが、監督が目指すサッカーについて、現時点でのチームの手応えや浸透度合いなど、来季につながる部分は。（朝日新聞 小川）

チームのベースとなる選手たちは、残ってくれます。チームに今シーズン不足していた部分を埋めてくれるような補強を、この年末年始にすることがとても重要になってきます。

ベースはあります。そこは素晴らしいポイントです。今シーズンのスタートよりも、間違いなく来シーズンは、いいかたちでスタートできると思います。チームの完成度を高めるため、質の高い選手が加わり、その選手がいいかたちでチームに適応してくれることを願っています。その新加入選手と、いいシーズンを迎えたいと思います。

—今季を終えてみて、チームづくりの完成度は100%で表すとどれくらいか。(NHK新潟 渡邊)

今シーズン最後の5試合を除いた場合には、チームは60%ほどの完成度にたどり着けていると思います。

—その理由は。(NHK新潟 渡邊)

50%を超えているのは、なぜならばチーム全体に、おおよそのプレースタイルが浸透したからです。このクラブにとって、新しいプレースタイルへの取り組みでした。そういう意味では、プレースタイルの変更はとても難しい中、チームはいいかたちで新しいプレースタイルに適応してくれたと思います。「ボールを大切にする」というポイントを、選手たちも時間をかけて理解するようになりました。

ただ、より高いレベルでそのプレースタイルを表現することが、当然、より良い試合結果を生み出すためには重要なわけですが、それができていたかという点、決してそうではありませんでした。

今、チームは60%ほどの完成度の状態です。そして来シーズン、このポイントが90%、それ以上の高い完成度にいくためにも、より良い補強が重要になってきます。

—改めて、今季J1昇格を逃した最大の原因と、来季昇格するためには何が必要か。(NHK新潟 渡邊)

今シーズンは、新たな取り組みが同時に始まりました。私も日本での指導は初めてでしたし、多くの選手が新加入してきました。クラブはプレースタイルの変更に取り組み始めた年でした。そのような難しい、いろいろな変化の中、われわれはいいかたちで勝ち点を重ねてきていました。ただそこに、いろいろなことが起こり、特に多くの長期戦線離脱する人が出てしまったというのが大きな原因としてのしかかり、昇格争いから戦線離脱してしまいました。もし諸々のことがうまくいき、この難しい1年に昇格を達成できていたとしたら、本当に素晴らしい、歴史に残るシーズンになっていたと思いますが、実際にはそうならず、残念です。そして来シーズン、より良い試合結果を出すためには、ベース(となる選手)は残ってくれます。そのベースに質の高い選手が加わり、いいかたちで融合することが大事になってくると思います。

—けが人が多く出た。不運な面もあったが、防げるとしたら、できたことはあったか。(新潟日報 紫竹)

ノー。ノー。今シーズン、具体的に出たけがに対してわれわれにできたことは、ほぼなかった。けがに関しては、ほぼすべてがアクシデントによるけがだったからです。骨折等による、もしくは靭帯の断裂というアクシデントによる大きなけがによる長期戦線離脱。そこにわれわれができることは少ないと思います。今シーズンのフィジカルコーチ、トレーナー陣、メディカルスタッフは素晴らしい仕事をしてくれたと思います。なぜなら今シーズン、筋肉系のけが、コンディションが悪いがゆえに起こりうる筋肉系のけ

がが、ほぼゼロだったからです。

この過密スケジュールの中、ほかのチームでは筋肉系の大きなけがをする選手が多く続出したと聞いています。それに比較すると、今シーズンわれわれはいいかたちでフィジカルコーチ、トレーナーが仕事をしてくれていたと思います。

―当時の（玉乃 淳）GMと相談したことだと思うが、過密日程の中、シーズン途中で3人の選手を期限付き移籍させたのはどのような判断があったか。それが与えた影響は。（新潟日報 紫竹）

若い選手は、プレーしなければ成長できません。それゆえに、若い選手をレンタルで出しました。彼らのような若い選手は、トレーニングだけでは成長できません。公式戦に出続けることが、飛躍的な成長に好影響をもたらします。彼らは伸びしろがある選手たちです。それ以外の理由はありません。

―成長させながら使っていく、という選択肢もあったのでは。（新潟日報 紫竹）

当然、チームは勝利を目指して選手を選考し、戦わなければいけません。その中で、選手の成長を優先して起用するという事は、勝負にこだわるチームとしては難しいです。それゆえに、プレー経験が必要な若手選手はレンタルに出して、プレー時間を提供したというのがあります。

若い選手の育て方に、よりよい方法があるなら、ぜひ教えてほしいです。若い選手はプレーすることが必要です。ここで残って、プレー時間に恵まれる選手もいます。なぜならプレーするに見合うレベルを表現しているからです。そうでない選手はほかのチームにレンタルして、時間を提供してあげることが、彼らの成長に必要な道のりです。

―過密日程の中で、比較的ローテーションせずに、同じ選手に負担がかかっていたと思うが。（新潟日報 山田）

シーズン当初は、選手を多くローテーションしていました。そのおかげで、チームは安定感を成長させることができました。その安定感によって、より良い試合結果が提供されました。ただその後、9人ほどの選手が戦線離脱しました。その9人のうちの多くの選手がスタメンでプレーしていた選手たちです。

そのような戦線離脱が多い中、1試合1試合、勝利を目指して戦うことを目指した結果の選手選考です。ローテーションを多く回したほうがよりよい結果になるのであれば、そうしていたでしょうけれど、私はそうは思わなかったので、このような選手選考をしてきました。

—初めて監督をしてみて、J2 の印象は。(新潟日報 山田)

テクニックのレベルの高いリーグだと思います。システムにおけるチーム戦術も、とても成熟したリーグだと思います。フィジカルコンディションのレベルが決して高いわけではありません。ボールのプレースピードも高いと思います。

ただ、勝負の世界では許されない、若いミスが継続的に発生するリーグでもあります。

ボールをしっかりつなぐ部分、そして、よりシンプルにプレーする。その両方を、多くのチームがうまくミックスしてプレーしています。

例えばアビスパ(福岡)は、より勝負にこだわって、いい結果を残してきたチームかと思います。一方で、徳島は長期プロジェクト。4年間のプロジェクトによって成功しています。J1 と同時に J2 も毎年のようにレベルアップしている、とても素晴らしいリーグだと思います。

—監督にとっては新たなチャレンジのシーズン。苦しいこともあった中で、喜びや収穫になったのはどんな部分か。(エルゴラッソ 野本)

より感傷的になった日は、今日だと思います。試合後の更衣室の中には、この数試合、いい結果をサポートに届けられずに、とても悲しい雰囲気でした。

そして何人かの選手は、チームメイトに別れのあいさつをしていました。

そしてほとんどの選手が、今シーズン、今までにない素晴らしい団結したチームであったとコメントしています。

一人一人が成長できたシーズンであったと思います。一方で、この最後の数試合のところで、いいかたちで今シーズンを締めくくれなかったことによる悲しみもあります。チームを離れざるを得ない選手もいるわけで、そのような、さまざまな感情に満たされた更衣室。その雰囲気は、とても感動的なものでしたし、そして悲しいものでした。そういう意味では、今日がとても記憶に残る、印象に残る 1 日だったと思います。

(監督から最後に)

継続的にチームを追いかけてくださった記者の皆さんには、すでに今シーズンのお別れの挨拶は、先日させていただきました。改めて、つねにリスペクトしていただき、とても感謝しています。

すばらしい休暇と、よりよい新年を迎えられますこと、心よりお祈り申し上げます。

みなさんの、そしてみなさんのご家族が健康に恵まれることを、心よりお祈り申し上げます。